



# みはらふくし情報

# 11月号

平成30(2018)年

11月1日発行

## — 三原市社協各地域センターからのお便り —

本部・三原地域センター(三原市総合保健福祉センター4階) 電話 (0848)63-0570 FAX (0848)63-0599  
 本郷地域センター(三原市本郷福祉センター) 電話(0848)86-3607 FAX(0848)60-6064  
 久井地域センター(三原市久井保健福祉センター)電話(0847)32-7101 FAX(0847)32-5011  
 大和地域センター(三原市大和保健福祉センター)電話(0847)34-1214 FAX(0847)35-3020

朝夕も肌寒さが秋の深まりを一層感じさせるようになりました。社協では7月豪雨災害で被災された方の支援を行う「三原市地域支え合いセンター」を本郷福祉センター内に開設するとともに、毎週金曜日と土曜日には引き続き災害ボランティアセンターを開設しています。今月は本郷地区社協の活動と見守り活動についてお知らせします。

# 秋祭りで楽しみました！また来年も遊びに来てね

## ～ 本郷地区社協 お茶の間サロンさくらんぼ本郷 ～ 本郷地域センター

平成30年7月豪雨災害により本郷町内では甚大な被害が発生しました。地域の集いの場となっていた集会所やコミュニティーセンターは、避難所になったり被災をして使用が難しい状況が続いています。

災害からの復興にはまだまだ時間を要しますが、少しずつ進んでおり、地域でも少しずつ集いの場が再開されています。

本郷地区社会福祉協議会(以下「本郷地区社協」)が主催する「お茶の間サロンさくらんぼ本郷」も休会が続きましたが10月から活動が再開されました。10月22日(月)には地域の親子を招き「ミニ秋祭り」を開催しました。高齢者と若い世代の交流を目的に昨年度から開催されています。この祭りは本郷地区社協が「小地域お茶の間づくり事業」に取り組んだことをきっかけに高齢者と若い世代との交流を目的に昨年度から開催しており、今年も7月に予定されていたものでした。

この日は子どもたちが楽しむことができる「射撃」「魚釣りゲーム」「金魚すくい」をはじめ、ゲートボールのようなスポーツ「スカットボール」、カーリングのような「ユニカール」が準備され、子どもたち

だけでなく、高齢者もみんな童心に帰り、夢中になって楽しまれていました。

近くの総合技術高校3年生も駆けつけ、総勢80人を超える参加でたくさんの笑い声に包まれました。祭りが終わり、帰る際には、子どもたちと高齢者がハイタッチを交わし、「やっぱり小さい子を見ると、元気がもらえるよねえ～」と子どもたちとの交流にとっても充実されたようでした。

住民同士や世代間のつながりが希薄する今日、このような同じ地域に住む世代の異なる人が集い、一緒に楽しむ機会は、日常の暮らしはもちろん、災害時にも助け合える地域づくりにつながります。社協は、誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、「サロン」や「見守り」、「支え合い」の活動をすすめていきます。



# 見守り活動で強まる地域のつながいを宝物に ～それぞれの地域のカタチ～

久井地域センター

社協では「誰もが安心して暮らせる地域づくり」をスローガンに地域のみなさまと一緒に小地域福祉活動をすすめています。その中の「地域見守り推進事業」は、地域の中で見守り活動を行う「見守りサポーター」を選出し、一人暮らしや高齢者の方に同意をいただき、日常の見守りを行うボランティア活動です。

この活動の大きな目的は住民同士のつながりづくりです。カーテンの開閉、電灯の確認、訪問等による日常の見守り活動と見守りボランティア・民生委員・福祉専門職による見守り連絡会議を行っています。この活動により、防犯情報や小さな気づきの共有、ときには生活課題の早期発見ができ、活動を続けることにより、人と人との信頼関係が輝いています。

この見守り活動は、平成20年に久井町中野地区を

モデル地区に活動が始まり、現在では市内23地域で活動が展開されています。実施地域では「安心感が広がった」との意見もあり、それぞれの地域に合った「見守り活動のカタチ」が育まれています。

豪雨や台風による避難勧告が発令された際も「避難はどうする？」と声掛けが行われたり、「不安だったらうちにおいで」と電話連絡をされたこともありました。従来の関係性を基に、見守り活動でより育まれたお互いを気に掛け合う関係が地域の宝物になっています。

7月豪雨災害により開催を延期した「見守りフォーラム in みはら」ですが、11月10日(土)にくい文化センターで開催します。ぜひ皆様で誘い合わせのうえ、ご参加ください。

## 開催迫る 見守りフォーラム in みはら

～被災地支援を通し、見守り活動の大切さを考える～

とき

平成30年11月10日(土) 13:30～15:30

ところ

くい文化センター高原ホール(久井町和草 1883番地6)

講師

ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志さん

事例報告

久井町吉田地区 民生委員 法堂 陽子さん  
中之町第5ブロック 福祉推進員 岡田 増夫さん

定員

300名(参加費無料)

主催

三原市・三原市社会福祉協議会



※市内の活動事例集をお配りします!!

## お役立ち情報

## 災害非常食 ポリ袋と備蓄食品でつくる親子丼

災害時やアウトドアで活用できる、ポリ袋を使った親子丼の調理法です。

材料(2～4人分)

焼き鳥缶・・・1缶	醤油・・・大さじ2
玉ねぎスライス 1/4個	和風顆粒だし 2グラム
砂糖 大さじ1と1/2	水 50cc
みりん 大さじ2	卵 3個 ご飯 適量

作り方

1. 卵以外の材料をポリ袋に入れ、空気を抜き上の方で結ぶ。
2. 大きめの鍋に湯を沸かし、ポリ袋入れ20～30分加熱。
3. 袋を開け、別の袋の中でもんだ卵を加えて再び湯の中へ入れる。卵が半熟になったらできあがり。

レシピ: クックパッドより